

難波西鶴と 海の道

【100】

森田 雅也

感謝したのでしよう。

江戸時代、西回り航路を使って、北海道松前・山形酒田・越後・加賀石川・越中富山・越前福井・兵庫・鳥取・島根から、九州航路を使って、西国九州から、瀬戸内海航路を経て無数の船が難波へとやってきました。

いわゆる元禄時代、好景気に沸く上方で、俳人・浮世草子作家として活躍し、その文学的声望を日本中に知らしめた「西鶴」。特に晩年約10年で20作品余の浮世草子を刊行し、そのほとんどが短編で、日本各地を舞台とした諸国話形式でし

た。

当時の旅行は、今のよう
に手軽でなく、関所が厳し
く、道中手続なども煩雑な上
五街道以外は道路も十分に
整備されておらず、とても
苦勞しました。その「ことば
西鶴と同時代の芭蕉」「奥の
細道」などを読みあわせて、再
指摘してやりました。

ところが西鶴の浮世草子
には、日本中の何十、何百
の地域が面白おかしく登場
します。中には酒田や敦賀
のように見てきたような話
もありました。そこで難波
の文豪西鶴は、「海の道」
を利用して日本全国から情
報収集し、作品化したとい
う前提から書き進めまし
た。
しかし、途中、海につな

「海の道」の便利さに感謝

がる川の流域の話も多く存
在しているとして、いくつ
かあげました。今、不便な
内陸部でも川を利用すれ
ば、海につながり、簡単に
上方に出られたからです。
もっと、紹介したかったで
すね。「航海」ならぬ「後
梅」は後半、版權の煩雑さ
があって挿絵を用いるのが
少なかったことです。怠慢
お許しください。

この記事で「西鶴忌」を
お知らせになった方も多
いと思います。毎年9月、西
鶴の菩提寺大坂誓願寺で行
っています。また、お運びく
ださい。長らくのご愛読あ
りがとうございました。

(関西学院大文学部文学
言語学科教授)

(おわり)

大坂へ近づづくにつれあふれる希望